

橋本久仁彦さんアナウンスメール

(ジャンル：カウンセリング) **時系列** (2010年11月からの半年間)

2010/12/22~2011/04/08 (逆順)

橋本さんのアナウンスメールの文章と、その中に含まれているフェンスワークスの文章（ゴシック）を掲載しています。主催の方の言葉や、お仲間の言葉、参加した方の言葉、削除するのが惜しいものがたくさんありますが、どうしても削れないものを除き、絞らせていただいています。

橋本さんのお考えのかかれていない案内は案内自体省いています。

重複している文章は、古いほうを残しています。

2011年5月 吉橋 編

目次

セラピストの在り方・FCの視界クラスのご案内 2011/04/08	3
27日「セラピストの在り方探求クラス」とその後のラインアップのお知らせ 2011/03/25	5
～ 構成的ファシリテーター（セラピスト）の在り方探求 ～ 2011/02/02.....	6
第18回ミニカウンセリング（リスニング・アーティスト）トレーニングクラスのご案内 2011/01/16... 7	
「セラピストの在り方探求・ファミリーコンステレーションの視界」クラスのご案内 2011/01/13.....	11
第3回「構成的ファシリテーター（セラピスト）の在り方探求・ファミリーコンステレーションの視界」 クラスご案内 2010/12/22	13

セラピストの在り方・FCの視界クラスのご案内 2011/04/08

皆様へ。

あさって10日は標記のクラスです。

「しんどい問題を抱えて生きる人が少しでもラクになるために
セラピストとして力になりたい」

という言葉が放っているエネルギーを
正確に見つめてみましょう。

もし我々にそれを見つめることが出来るならば、
その「見つめること」が我々の人生の「しんどさ」を
ただちに変質してしまいます。

変化はそのつど一瞬に生じており、
「少しでも・・・なるために」といった重くねっとりした時間（欲望）の
構築とはまったく関係がない出来事であると思います。

このクラスでの皆様との冴えた思考のやり取りは、
僕にとっては、若い頃大好きだった
野球と似ています（熱い高校球児でした^^）

試合の行方を決める大事な場面で、強く難しい打球を処理する
そのプロセスがそのまま快感なのです。

そこには全面的に自分がいて、しかも普段の自分はいません。

その全面的な自分は、幸せになる必要がありません。
「幸せで在ること」は「なる自分」を必要としないからです。

幸せにならなくてよいこと、よりよい自分にならなくてよいこと、
成長しなくてよいこと、問題を治さなくてよいこと、
本当の自分になる必要などまったくないこと
をクリアに見てしまいましょう。

僕としては残りの時間をみなさんと遊んだり、
冒険したり、ダンスやプレイバックやお花見をして、
円座に座ったら勝手に出てくる言葉（口から出任せ）を味わって
能天気にご過ごしたいと思っています^^

PT プロデュース はしもとくにひこ

27日「セラピストの在り方探求クラス」とその後のラインアップのお知らせ 2011/03/25

皆様へ。

1年前に時期を得て起動したフェンスワークスは
スタジオ CAVE を拠点にジワジワ存在感を高めています。

最初は二人だけだったスタッフも、いつのまにか5名を数え、
他にもご縁のある方々が入り込んでくださって、いつ訪ねても
魅力的な空間になっています。

近くにお越しの折にはお気軽にお立ち寄りくださいませ。

以下はフェンスワークスのラインナップです。
後半の3つのイベントは僕の担当です。

27日のセラピストの在り方探求クラスでは、
いろはにほへと・・・で誰でも知っている「いろは歌」に
折り込まれている日本人の無意識的な存在様式について
触れてみたいと思います。

「日本のプレイバックシアター」という表現と同じように、
「日本のセラピー（心理療法）」という表現には何か意味があるのでしょうか。

フェンスワークスのメールニュースをお送りします。

はしもとくにひこ

～ 構成的ファシリテーター（セラピスト）の在り方探求 ～ 2011/02/02

【ファミリー・コンステレーションの視界】クラスのご案内です。

前回は、コンステレーションワーク、サイコドラマなどの技法を用いる僕（橋本）のセラピー臨床場面を実際に行ってみて、参加者からの質疑応答を受ける内容となりました。

忌憚のない率直な質疑を受ける事は僕にとってもとても新鮮でよい学びとなっています。

このようなスリリングなクラスが好きです。

ではまた一緒に探求していきましょう。

はしもとくにひこ

第 18 回ミニカウンセリング（リスニング・アーティスト）トレーニングクラスのご案内 2011/01/16

第 18 回ミニカウンセリング・トレーニングは 2 月 16 日（水）より始まります。

月に一度ずつ、半年の時間をかけて、「人を聞く」という
現代社会ではほとんど見られなくなった非日常的意識状態を
探求するクラスです。

何百という 15 分間の作品を見ているうちに（「15 分間文庫」と
名づけてくださった方もいます!）「リスニング・アーティスト」という
言葉が見えてきています。

2 千年前から現在に至るまで、人間の関係において、
聞き手が語り手の言葉を聞くという構造は変化していません。

西洋的な対話の構造では、自分自身の疑問を大切に、
それはなぜですか？ どういうことですか？と問いを立てます。
そして得た答えを吟味して、さらに本質へ向かう問いによって
対話を深めていきます。

不変の「本質」を見出すために論理的・分析的に
接近しようとする動きがアリストテレス以来の一般的な
西洋的対話の姿勢であると言っていいと思います。

対して、ミニカウンセリングでは、語り手の言葉をその方の
生まれたばかりのカラダだと捉えて、その形のまま共感し、
共鳴します。

聞き手からの問いは立てません。

「問い」はむしろ語り手の「深み」から語り手自身に対して立ち現われてくる前言語的な照合作用として観察されます。

簡単に言えば、言葉以前のなにものかが語り手としての我々に問いかけてくるということです。

このような聞き方、聞く態度は、実は東洋的な姿勢であると思います。

聞いた対象・言葉の形に敬意をもって、その姿を操作せずに素直にその形になってみる。
するとその言葉・形が自ら明らかにする意味世界があるのです。

その意味世界は、分析的思考方法でたどり着く場所とはまったく違う別の世界です。

我々人間が、二つの別世界にアクセスできる存在であるという事実は僕にとって驚異的なこと、面白くてたまらないことです。

その対象・ものに「なって」みて初めて了解することができるような関わり方、関係する姿を、本居宣長は「もののあはれをしる」と表現しました。

「松の事は松に習へ、竹の事は竹に習へ」と門弟に教えたのは松尾芭蕉ですが、彼も、「松の木の生態について客観的に説明しなさい。」という現代の我々の態度とは違ったまなざしを持っているのが分かります。

聞いた言葉をそのまま頂いて、形を変えずに共鳴・共振することによって知っていき、「知らされて」いく世界、そのような感応によるコミュニケーションは、

日本においては和歌や短歌、俳句の様式としてすでに成立しています。

茶道や華道では、ものそのものの姿に語るスペースを与えることによって、

同時に我々自身の存在がその「場」に立ち現われることになるような、洗練された感応伝達の様式が見られます。

なんだか日本の文化って宝の山みたいに見えますね！

僕にも最近やっと、日本人として生まれたことの楽しみが分かってきたみたいです^^

聞き手と語り手の間に生まれる15分間の舞台に起きている出来事の探求は、僕にとってはまさに15分間の日本的な芸の道なのです。

引き続き、ご縁ある方々と一緒にしたいと思います。

PT プロデュース はしもとくにひこ

① 何をするのでしょうか。

ミニカウンセリングと呼ばれる実際のカウンセリングを参加者の皆さんに経験していただきます。

まず、カウンセラー(聴き手)とクライアント(語り手)の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作ります。

そして、二人の人間の間で起こった現象を、エネルギーのレベルに着目して、ていねいに観察します。

② 学習の効果は？

我々の思考の営みが見えてきます。

その後、感情・感覚・存在といった人間を構成するエネルギー各層への視界が戻ってくるでしょう。

思考の働きが、相互作用しつつ変化する柔らかいエネルギーの上に、観念を次々に投影して固定していく様子を観察することで、

人間関係が新鮮さを失っていく原因が、聴く態度や存在のしかたにあることに気づく機会を得ることになります。

③ このトレーニングの目的は？

カウンセリングを行うときや、グループをファシリテートするとき、あるいは一般的に生じるあらゆる人間関係の中で、特に人の話を聞く時の態度や在り方について具体的に歪みなく対象を認識するための視力を回復することです。

③ このトレーニングコースのビューポイントは？

他者のお話に耳を傾けるとき、「自分が聴いている」姿勢から「ただ聴いている」状態にシフトし、さらに出来事や現象の方がわれわれに耳を傾けているように感じられる「共時的な場」に入ると、相手が語ってくださる物語は、援助すべき問題を持った「ケース」から聞き手を魅了する「作品」へと変容します。

「セラピストの在り方探求・ファミリーコンステレーションの視界」クラスのご案内
2011/01/13

～ 構成的ファシリテーター（セラピスト）の在り方探求 ～

【ファミリー・コンステレーションの視界】クラスのご案内です。

前回クラスに参加された方からお便りを頂きました。
僕にとっては啓発される内容でしたので、その抜粋を
シェアさせていただいてご案内に代えたいと思います。

はしもとくにひこ

「・・・最後までクライアントに寄り添い、クライアントの目線で、
その詞の一言一句のなかにあるギフトを模索するという姿勢は

ロジャーズの実存的スタイルともいえるものですが
やはり吉本先生の内観療法にみられる身調べ、

母や父との関係性の中にある
お世話になったことを見つけていく姿勢ともつながる気がしました。

そしてそれは
家系の先祖や過去生のなかにその原因や愛の源泉を見出していく
ファミリーコンステレーションをはじめとするセラピーにみられる因果論を
越えていく何か

いまここにすべての答えがある
まさに
すべての修行をすて

弥陀の本願・称号のなかに
本質を見出す姿勢ともつながる気がしました

（中略）

2回目のワークは
クライアントのさまざまなおとぎそのときの思いを思いとして
ありのまま受けいれ

それをありのままプレイバックで表現
そこには実存としてのプレイバックと
その底流にながれる無意識的な流れが

ファミコンの代理人的なアクターの動きの中にじわじわと
あふれ出してくるという状況が見えてきて

これこそが日本的な（能楽的な）
ファミコンという気がしました。（後略）」

第3回「構成的ファシリテーター（セラピスト）の在り方探求・ファミリーコンステレーションの視界」クラスご案内 2010/12/22

皆様へ。

表記のクラスは、お蔭様で盛況のうちに進行中です。
毎月楽しみに待ってくださる方も多くて、僕にとっても面白く、やりがいのあるクラスになっています。

ファミリーコンステレーションをはじめとして、「治療」「問題解決」を目的とするアプローチは、当の「問題」を「問題」として成立させる為の構造（価値の枠組み）を持っています。
治療すべき問題とその答え（解決）は、その構造の中でのみ成立する出来事であるといえるでしょう。

セラピーの視界とは、構造的な視界なのです。

我々はまだこの構造について無意識的なので、
レヴィ・ストロースやソシュールなどの社会や言語についての構造論哲学が、その意識化のためにとっても役に立ちます。

セラピストが代理人の言葉から情報を得るのは、
家族に起こった出来事の情報だけではなく、

語尾の言葉の流動的な使い方に含まれるニュアンスや
視線の動き、ため息などから、クライアントの存在の仕方（構造）
に関する情報を得る事が大切だからです。

我々の存在の仕方は、生まれたときにすでにそこにあって機能
していたシステム（構造）にあらかじめ組み込まれているのです。

ところで最近僕は、哲学書に親しむようになってきました。

若い頃は、哲学など瞑想の妨げだ、くらいに思っていたのに
今は、こんなに面白いものに気がつかなかったなんて！
というくらいハマっています^^。

以前は考える事と知識を組み立てることを一緒くたにしていたのです。

ピュアな思考は生きています。それが我々の本当のカラダだと言えるかも知れませんね。

オドルカラダとは、僕にとってはオドル思考でもあるようです。

ピュアな思考は、この自分とは何か？今生きているとはどういうことか？という問いから始まって広がり続ける意識現象です。

ダンサーはこの意識現象をカラダに投影して時空を作ります。

見えない次元では、意識は言葉によって（なって）広がります。

我々人類は言葉によって自らの世界内体験を創造するわけですからたとえばミニカウンセリングは、15分間の、人がその人の世界（人生）を創造する一大スペクタクルであると言ってよいと思います。

ミニカウンセリングのクラスは来年2月より新クールがスタートする予定です。

僕自身が毎日新しく目覚めていますので、今度のクラスも新しい体験内容になるのは間違いなく、今からワクワクしています。

話がずれました^^ というわけで、日曜日の「セラピストの在り方」クラスへ向けてのご挨拶でした。

橋本久仁彦